



先月は、咳・鼻水・発熱などの症状で体調を崩すお子さんが多くみられました。突然の高熱や長引く症状に、心配された保護者の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。小さいお子さんほど体調の急変も考えられますので、早めの受診や病後の十分な休養を心がけていきましょう。
また、気温や湿度の高い日が続き、プールや水遊び、戸外活動による熱中症などへの注意が必要な季節となります。しっかり水分補給を行い、栄養・休息をとって、暑い夏を元気に乗り切りましょう。

多摩府中保健所管内では夏の感染症が増加傾向です。また、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザも緩やかですが報告数が増えています。

《増加傾向の感染症》

★**RSウイルス感染症**：風邪症候群の代表的なウイルスです。発熱、咳、鼻水などの症状があります。2歳以下の乳幼児では重症化しやすく、肺炎や細気管支炎を発症し、ひどい咳、喘鳴、多呼吸などの症状が現れることがあります。

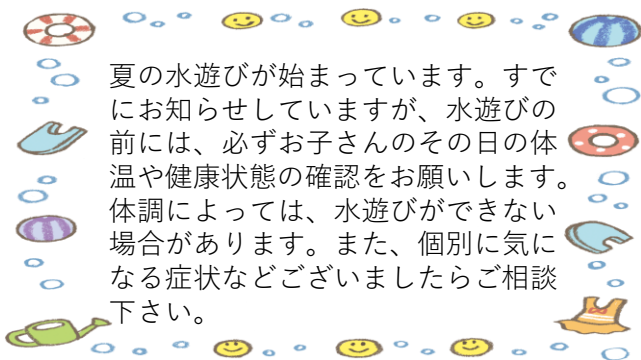
★**ヘルパンギーナ**：喉の奥に水疱ができ高熱が出ます。水疱がつぶれると痛みがあり、食欲も落ちます。汗と高熱で脱水症状を起こしやすく、ごくまれに髄膜炎などを合併することもあります。発熱初期に熱性けいれんを伴うことがあります。

★**A群溶血性連鎖球菌咽頭炎（溶連菌感染症）**：溶血性連鎖球菌という細菌による感染症です。のどの痛みを伴う咽頭炎と、突然の高熱から始まることが多いです。全身に広がるかゆみのある赤い発疹が出たり、舌がイチゴのようにざざらになるのが特徴です。細菌が原因なので、抗菌薬が効果的です。抗菌薬を飲み始めて1-2日で熱が下がり症状は落ち着いてきますが、症状が治まっても体の中には細菌が残っていて、糸球体腎炎やリウマチ熱にかかることがあるので、薬は指示されたとおりに飲み切ります。

★**手足口病**：手のひら、足の裏、口の中に発疹や水疱ができることから手足口病と言います。痛みや痒みを伴い発熱したりすることもあります。口内炎が悪化して食欲が落ちたり、まれに髄膜炎などの合併症を起こすこともあるので、注意が必要です。

上記以外にも、夏に多い感染症として咽頭結膜熱（プール熱）、流行性角結膜炎、感染性胃腸炎などがあります。感染予防の基本となるうがい手洗いを心がけ、食事・睡眠をしっかりとして、体調を整えましょう。夏風邪は、どれも特効薬がありません。しっかり休んで回復させる方が、ぶり返しにくく長引きません。

また、これらの病気と診断された場合、感染拡大防止のため園にご連絡をお願いします。医師の意見書や登園届が必要となります。



夏の水遊びが始まっています。すでにお知らせしていますが、水遊びの前には、必ずお子さんのその日の体温や健康状態の確認をお願いします。体調によっては、水遊びができない場合があります。また、個別に気になる症状などございましたらご相談下さい。

【6月の感染症情報】

ヒトメタニューモウイルス感染症	1名
RSウイルス感染症	1名
突発性発疹	1名

7月の園医健診：7/11（火）くまのみ組

※他クラスのお子様でも、何かご相談などがございましたら職員までお声かけ下さい。

- ★いつもと様子が違ったり、ご家庭でケガ等をされた場合は登園時に職員にお伝え下さい。
- ★予防接種や健診を受けた際は母子手帳をご持参下さい。こちらでコピーをとらせて頂きます。
- ★定期受診をされた際は、診察時の内容と園の生活で留意することなどがございましたら職員にお伝え下さい。

6/24に全職員対象に心肺蘇生法・AEDの使用方法について研修を行いました。

